❑ 政府の放射能除染基準//毎時0.23μSv ❑
❑栃木県原発崩壊前//0.030〜0.067μSv/h❑

◆ひとこと電話で声を上げよう！

放射能から子どもを守るため
園庭、校庭の表土を除去してください
給食は放射性物質のない食材を使って

❑保育園･幼稚園//子育て支援課　0288-21-5186
❑小中学校//学校教育課　0288-21-5181

日光市放射能汚染分布
2011.10.03-12 調査/日光市
測定地上 50cm

マイクロシーベルト/以上〜未満		
0.1 未満	1ヶ所	0.2%
0.1-0.2	155ヶ所	28.8%
0.2-0.3	187ヶ所	34.8%
0.3-0.4	152ヶ所	28.3%
0.4-0.5	30ヶ所	5.6%
0.5-0.6	10ヶ所	1.9%
0.6-0.7	2ヶ所	0.4%
0.7-0.8	1ヶ所	0.2%

日光市の「そば祭り」放射能汚染、気にせず誘客 ‼
県発表０.３３μSv 除染対象の公園だったとは‼

日光市は、例年と変わらず「そば祭り」を11月18日〜21日に開催。下野新聞3面の大広告で誘客です。「放射線量は?」と聞くと、線量は気にしていず、「人体、健康に影響ない」との姿勢です。市の10月測定結果「日光だいや川公園」近くは0.29、0.34μSvです。

そして、12月28日(22日測定)/県放射線線量調査(子どもなどが利用する県の施設)が公表されました。県は、年度内にも除染着手するとのことです。

◆日光だいや川公園線量(5地点の測定結果)//地上50cm、1m//栃木県発表

地上1m	0.34	0.37	0.27	0.27	0.33
地上50cm	0.36	0.38	0.29	0.28	0.34

輪王寺で白煙の中、放射能飛散‼

31日深夜、何年かぶりで世界遺産の二社一寺を訪れると、とんでもない場に遭遇しました。山内(二社一寺)に入ると、それまでの 0.20 弱の線量から 0.218μSv と上がり始めました。駐車場に入り、さらに 0.258μSv へ。そして、輪王寺に近づくと白い煙におおわれた中を進み 0.271μSv に上昇、あわてて白煙のない場所へ逃げました。すると0.165-0.169μSvに下がり、ホッと一息です。怖いです。多くの人が放射能を吸い込んだことでしょう。これは、山伏が護摩を焚きお払いをするため杉の生の葉をいぶして放射能を撒き散らしていたのです。杉の葉に放射能付着は知れているはずですが･･･。

この影響は、二社一寺から日光駅への帰りは数値が全ての場所で 0.2 以上に上昇。

昨年11月12日、福島の須賀川での「松明あかし」では、今回のような放射能撒き散らしを考慮して、国内さまざまなところから「カヤと竹」の提供を受けて開催されました。

〈日光･放射能から子どもを守る会〉tel･0288-26-0130//E-mail　nairamdal-1871@dream.jp

放射能から子どもを守り
１人の被ばく者も出さない

〈日光･放射能から子どもを守る会〉2012.01.06//no.11

地表面セシウム汚染地図
2011.09.05/毎日

２０１２ 県内では除染の流れが進む‼
「放射能から子どもを守る」社会へ

政府は、放射能汚染、毎時0.23マイクロシーベルト以上について、除染費用負担を決定し、今年から実行します。栃木県内では、環境省が放射能対策の「汚染状況重点調査地域」に8市町、日光市、那須塩原市、大田原市、矢板市、鹿沼市、佐野市、那須町、塩谷町が指定しています。県は、やっと子どもの利用する県施設の測定をし、年度内に除染の動きです。また、下野新聞1月3日の「県内14市長2012新年抱負」に、放射線量の高い那須塩原市長代理「放射能除染対策を優先」、矢板市長「防災、放射能対策強化へ」、大田原市長は、文面で「放射性物質汚染対策班をより機能させて市民の生命財産を守ります」と載っています。しかし、日光市長は、「2011年3月20日、日光市は合併5周年を迎えました」との書き出しで、「放射能」「3.11大震災」は文面に出てきません。

政府の「原発安全神話」が崩壊しましたが、日光市は、「放射能安全神話」をつくりだして、その流れを突き進んでいこうとしているかのようです。

政府の進める毎時0.23μSv 以上除染基準は、0.23μSv 以下は「安全と言うことではありません」と言います。しかし、堂々と声を大にして、国民に言おうとはしません。

そして、日光市は、政府よりさらにひどい姿勢です。放射線の危険を子どもにも市民にも説明しないばかりか、「放射能安全」を強調し続けています。特に子どもを放射能汚染の場で平然と過ごさせているという恐ろしい現実です。

チェルノブイリの経験から「ウクライナは、放射能汚染度で被災地を①立ち入り禁止区域(原発から30キロ圏内)②強制移住区域(年間被ばく線量5mSv 超)③自主移住区域(同 1mSv 超)④放射線環境強化管理区域(同 0.5mSv 超)に分けています。」(2011.12.30/毎日新聞)これに当てはめると、日光では多くのところが③に該当し、残りは④に該当します。③は、自ら移住を希望すれば、その資金の支援などが受けられるとのことです。

ぜひ、日光市は、率先して「放射能から子どもを守る」ため、子どもたちが大人より2〜3倍も放射能に敏感なことから、政府の打ち出した0.23μSv 除染基準を大幅に下回る環境をつくり、人々が安心して暮らせる日光市にすることで、世界に誇る大自然と歴史遺産の日光の故郷を守りたい。

給食は一食ごと測定し放射能 ZERO の安心
１日でも早く以前の放射線量に戻そう
政府･県･日光市の積極的な除染対応を望む

０.２３マイクロシーベルト以上の除染地域、日光市!!

日光市は、「放射能安全神話」の流れを続ける!?

これまで日光市は、「放射能汚染」の実態に対して、「安全宣言」「風評被害」「誘客」を強調してきています。その中で日光市は、「放射能汚染」に対して、子どもをはじめ市民の健康を守るためにどのような姿勢であったかを振り返ってみます。

(月･日 s/下野新聞)

❑日光市の「放射線問題の取り組み」と、「放射能から子どもを守る」姿勢❑

❖日光市の広報に、この間、なんと「放射能」の言葉は、見当たりませんでした。いや、唯一、5月号、市長の「お知らせとお願い」で、「‥放射能などの風評により、深刻な状況‥水も空気も、観光地としても安全です」との記載がありました。異常でないですか。
❖「放射線測定器貸し出し」(報道 10.07s、11.13s)は、市民に新聞折り込みチラシだけのお知らせです。広報でも、市役所でも知らせようとしません。また、個々の測定結果を聞くことも集約もしていません。特に、住宅地のホットスポットの実態を把握しません。
❖「学校給食の食材測定器導入」(報道 10.01s、12.06s)は、保育所、小中学校全体で、なんと週に1度、給食で口にする食材外の10食材を検査です。安全ですか。
❖「子ども利用施設/ホットスポット除染」(報道 09.01s、09.06s)は、雨どい、側溝などの1μSv 以上除染です。この根拠は、福島県の学校で国の除染支援対象となった基準です。ですから、1マイクロシーベルト以下は、保育園、幼稚園、小中学校の屋外活動でも問題ないとの認識です。そして、以前と変わらず、校庭などは、子どもたちに利用させ続けています。子どもたちにとっては、放射線被ばくのたいへん危険な事態です。
❖日光市は、10月の線量測定結果から、なぜか「9割は0．40μSv 未満」との発表です。その真意を尋ねると、「安心して生活できる」と言います。危険な認識です。
❖日光市は、9月22日現在、放射線量は「‥かなり低くなり、一定レベル、毎時0．1～0．2μSv」との見解です。現在まで、県の測定結果は、0.24～0.25μSv 前後で推移していますし、10月、市の測定結果は、0．20μSv(50cm)以上は、70%を超えます。
❖市内では、多くのイベントが除染対象0．23μSv 以上の場所で開催されてきています。人々の「健康」「安全」を考慮した対応だったのでしょうか。
❖「横浜市の修学旅行を考える会」の日光市への要望書/市の回答は、「‥市内の小中学生‥‥私たちも、日常の生活を安全に送り‥屋外‥でも通常通り活動‥‥観光客の方も数多く訪れて‥います。」と。子どもたち、市民を犠牲にした姿勢です。
❖日光市の「安全宣言」「風評被害」の根拠と、「放射線汚染」の危険な実態は、相いれないものです。不可解です。どう説明するのでしょうか。

10月下旬、私は、急きょ、放射能の危機を訴えてチラシ配布をはじめてから、いくつかの交流サイトでチラシが紹介されています。それをきっかけにしてメールをもらい、そのやりとりの一部を抜粋して紹介します。あるお母さんの子どもを守る、必死の小さな奮闘記です。(おおしま)

放射能から子どもを守る

５年後、子どもと笑って過ごしていたいです♪

1

心配は学校給食！！”牛乳”を飲ませたくない

○×市在住/仮名 ナナオ

はじめまして、こんにちは。
○×市に住むナナオと申します。わたしも、ここ○×市で、なんとか放射能から子どもを守りたいと一人で、たたかっています。とても辛く、長い長い道のりですが、めげずに頑張って行きたいと思っています。
『○×市』にお住まいの方はいらっしゃいますか？
わたしは、現在、○×市に在住で、息子が一人います。小学生です。
今回の、原発事故後、福島の原子炉が爆発してしまった後から、早い段階で、放射性物質の危険性を危惧しております。

一番、今、心配しているのは、学校給食です。
とくに、わたしは”牛乳”を飲ませたくないと思い、学校に伝えましたが、結果からいうと、『飲まなくてもいい』という許可はいただけませんでした。
学校長と、栄養教諭と約1時間半にも渡って話し合いをしましたが、『安全だ』『風評被害だ』『マックのフライドポテトの方が発がん性が高い』『給食は授業だから、残さず食べないといけない』『自分の子だけ助かればいいのか？（校長談）』『学校は集団生活だから、みんな同じものを食べないといけない』とのことでした。
でも、納得いかず、給食勉強会が先日あったので参加しました。
ちなみに給食勉強会は、毎年この時期に行われている行事！？の一環で、PTAの役員さん方が主催で、給食のことについて栄養教諭より、ご講義いただく勉強会です。
このご時世に、勉強会の内容は、『おやつ』についてでした。去年までいなかった、教頭先生も勉強会中ずっと同じ教室にいました。（ちなみに校長は修学旅行に行っていました）
事前にいただいた勉強会のお知らせには、【質疑応答】の時間が最後に設けてあったのに、当日配布された資料には、【質疑応答】の時間がなくなっていました。予定より早く栄養教諭のお話が終わったのに、終了されてしまいました。
モヤモヤしていましたが‥‥

〈次号につづく〉